
俺のジョブは勇者と魔王

ポチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺のジョブは勇者と魔王

【Nコード】

N5305Z

【作者名】

ポチ

【あらすじ】

とある世界のとある領土。そこは魔族と人間達が互いを認め合わず殺しあっていた。

そんな世界とは関係ないはずだったのにあの日全てが狂った。

第1話 召喚の準備

「くそ！ 魔族どもめ……」

狭い部屋の中で男は声を荒らげて叫んだ

「王様……やはり我々が魔族を滅ぼすことは不可能では？」

一人の老人が呟くように言った

「……だが今更後にはひけん。それに今回は連合国家の獣人族にエルフま

でいるのだ。しかも獣人族の中でも名高いウォルド・グラウに、魔法使

いの中でもトップを争うほどのエルフ、エル・ベレン、さらにはこの私

剣士としては超有名なラッシュ・ソルドまでいるのですぞ！」

自信満々に言う男

「……ですがラッシュ、あなたは一つ忘れております。……エル殿にウォル

ド殿は先程の戦いで重傷を負い戦場にはでれません。」

これを言ったのは服装的に看護師的存在の女だった
暫く長い沈黙が続いた。そこへ

「お父様……勇者を、勇者を召喚しましょう。」

国の第2王女ネル・ゲヴィッターヴォルケは言う

「ネルよ、勇者を召喚するとゆうことがどうゆうことか分かってい
っているの
だな？」

勇者を呼ぶには魔方陣が必要。善の言葉で綴られた魔方陣に大量の
魔力、そし
て勇者に必要な力を得るための犠牲……勇者を召喚する者の命……

「私は国で唯一勇者を召喚する力をもつ者です。魔族との戦争が始
まった時か

ら覚悟は決めておりました。」

彼女の目は覚悟を決めていた

「ならばさっさと召喚せよ。」

実の娘が国、いや父のために自分の命を犠牲にして勇者を召喚する
と言っ

るのだ。その娘に対し王は冷たく言い放った。

少しは自分のことを失うのが悲しい、などの言葉を発してくれるの
かと期待し

ていたネルの目には傷ついた様子が現れていた。

（さっさと召喚しろ……か、やはり私は父にとってただの道具、戦
争に勝った

めの勇者を召喚できる以外には必要とされない『道具』だったの
ですね……

でも姉さまや妹達、国民のためにも私は勇者を召喚する！（

彼女の決意は硬かった、たとえ父に道具と思われていると分かって
も

【SIDE 魔族】

「なんとゆうことだ……」

同胞　魔族の大量の死体を見て彼　デヴォルム・デモニックは
言った

「隊長！　人間達が勇者を召喚しようとしているとのこと！」

魔族の兵士がデヴォルムに告げる

「勇者か……人間どもはそこまでして我ら魔族を滅ぼしたいか。…
…皆に伝え

よ、勇者召喚に対抗し、我らは『魔王』を召喚する！」

魔王の召喚も勇者召喚と大して条件は変わらない。変わるのは魔法
陣に使う文

字が「善」から「悪」に変わること、高い魔力がいる。さらに勇
者と違い命

でわなく魔力を奪い取るため体、書く器官、細胞などのいろんなこ
とを具現化

するためには一人の命では足りない、足りたとしたら魔王など必要
ないだろう

「生贄は？」

そう問いかける兵士に

「敵対していた魔神達を捉えたはずだ。奴らを生贄に捧げれば十分足りる。」

「足りんようなら私の娘でも生贄に捧げろ」

さすがは魔族の全軍を指揮する隊長。彼には生贄を、娘を惜しむ気持がなかった。

ネルの父もそうだったが……

第1話 召喚の準備（後書き）

エルフや獣人は魔族じゃないのか？とゆうことでここで補足します><

エルフや獣人など『善』の感情をもったものは魔族ではなく『ハーフ』 人間と魔族の混合、に分類されています
仮にエルフが『悪』の感情を持ち大きくなるとエルフからダークエルフとかわり魔族に分類されるようになります。

要は善か悪かとゆうことですな

第2話 召喚された青年

夜、人間と魔族は召喚の準備を始めた。
勇者には善、魔王には悪。
そして魔方阵が作られた。

「聖なる力よ闇を払いて」

「闇の力よ聖を犯し」

「正義の力で我らを守れ」

「破壊の力で全てを壊せ」

「もしも我らが悪に犯されたなら
れたなら」

「もしもわれらが聖に浄化さ

「「汝の力で葬りされ」」

二つの種族の言葉が重なった
次の瞬間、二筋の光が魔方阵からでて生贄、召喚士はきえた。ここ
までは普通
どおりだった。いや二つの詠唱が重なってしまった時からすでに普
通ではなか
ったが。

それぞれの魔方阵から発していた光が徐々に近ずき合うように戦場
の真ん中に
動いていく。当然いままで勇者や魔王が召喚されることは稀だった
ためそれが
普通だと思っていた。そして……二つの光が重なり広がり魔方阵を
書いてゆく

片面には『悪』 Chaos（混沌）

B?ser（悪）

H a s s (憎悪) ……

片面には『聖』 F r i e d e n (平和) L i c h t r e f l

e x i o n (光) W u n s c h (希望) ……

おかしかった。あきらかに……

そして光が消えなから一人の青年があらわれた。

「魔王様！」 「勇者様！」

声が重なる。魔族と人間はそれぞれのお互いに見つめ合う。

ここで勇者か魔王、どっちが召喚されたのかで勝利はきまる。

「絶対勇者様にきまっている！ そうでございましょう？勇者様」

「ふっ馬鹿な……我らが魔王様に決まっておるわ！」

互いに言い合う。まだだれもおかしいとは思っていなかった。
生贄が起き上がるまで……

「あ、あれ？私は勇者様を召喚するとき死んだはず。」

ネルだった。生贄となつたはずの彼女はなぜか動けた。意識もあつた。

周りを見るとみんなが啞然として私をみている。

「な、なん、で？」

同じように魔王召喚で生贄となつた者たちも生き返っていた。
ここにきて初めてみんながおもつた

（おかしい！）

そしていそいで魔方陣から出てきた青年を見る。

そこには黒髪、黒目、右手に善の魔方陣、左手に悪の魔方陣をもつ青年がいた

「お、お前は一体なんなんだ？ま、魔王か？それとも勇者か？」

第2話 召喚された青年（後書き）

誤字、脱字とう感想があったら報告くださいますし、><

第3話 よびだされた青年

【SIDE 謎の青年】

「お〜い！ 勇也。」

向こうから俺を呼ぶ声がする。

俺の名前は魔藤^{まどう}勇也^{ゆうや}中学三年15歳……とだれに自己紹介してんだ？

「勇也！ むしすんなよ〜」

向こうから拗ねた表情で走ってくる男。

「ああ、わりい。ちょっと考え事してた」

俺がそう言つと、まあいいけどという感じの表情でみてきた。

「それより勇也、いいのか？こんなところで道草食って？」

「？今日なんかあつたっけ？」

俺の問いに男 悟はありえない！ と言いたげな感じで見てきた。

「お、おま……今日は裕也の幼馴染かつ彼女の彩香の誕生日だろ！
？」

……や、やばい……わ、わす

「忘れてた、とか言わないよね？」

なんだよ！その俺を攻めるような目！や、やめてくれ！

「ま、まさか！ 忘れるわけねーじゃんか。あは、アハハハ」

嘘だね、つと悟に言われてたのは気のせいだろう。

「おっそ~~~~~~~~い！！」

彩香に怒鳴られる

「ま・さ・か忘れてたんじゃないわよね？」

ご、ごめんなさい。忘れておりました。

なんでもするからその笑顔でおれを殺そうとするのはやめてくださ
い……

「わ、わるかったって！」

「あ！ やっぱ忘れてたんじゃん！」

俺の言葉を聞いて悟が追い打ちをかける

ちなみにこのあとご馳走にありつくまでに彩香に冷たい視線で見ら
れてた気が

するのは気づいてないことにしておいた。

「まったく……幼馴染の誕生日忘れるとかサイテーだよ！」

完全に拗ねた彩香。その姿はともかわいらしく後ろから襲いかか

……げふんげふん

「いや、本当悪かったって。」

じつと、と見てくる彩香。

「あーはっ！ ほらプレゼントやるから、な？」

と、もので釣ってみることに。

「……プレゼント用意するのはフツーだよな？」

おっとバレたか……

「じゃあいらない？」

少し、いじめてみるか……

「いる！」

即答だった。

「でもな、彩香いつまでもすねてるしな」

チラッと彩香をみると焦ってますねてないアピール。本当にかわいい。

「え????な、なんのことかな」

笑顔で顔してくる。……ま、可愛いそうだしここまでかな

「わかったよ。ほら」

と言ってペンダントを渡した

「こ、これってたしか去年欲しいなって言ってた……覚えててくれたの？」

彼女の問いに笑顔で返す

……きざとか思うなよ？

そして楽しいパーティーもおわった。夜も老けたから解散とゆうことで

そしてある出来事が起こった

家の鍵を開けてなかに入る。親も夜遅いからもう寝ているのだろう

俺もさっさと寝るか……

風呂にはいって寝よう！とおもって服を脱ぎ風呂場に行き湯船に浸かった

そして気がついたら

「お、お前は一体なんなんだ？ま、魔王か？それとも勇者か？」

鎧をきた兵士や何かのコスチュームなのかしつぽや耳が生えた人たちに囲まれていた
もちろん全裸の状態で

(は？魔王？勇者？なにいつてんだ？)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5305z/>

俺のジョブは勇者と魔王

2011年12月18日00時48分発行